



仏壇事情を考える

弘教寺住職 中山英昭

最近仏壇を買いたいという門徒さんと、お店を訪ねました。気付いたことは、現代(家具調)仏壇が以前にも増して、生活権を得たようで、店内のかなりの部分を占めていることに驚かされました。寺に所属されている門徒さんのお宅でも、家具調仏壇が多くなってきました。

要因は多々あるでしょうが、現代の住宅事情がその一つにあるようです。間取りを見ても、和室は付き合い程度に一部屋ほどで、ほとんどは洋室で、生活スタイルがガラッと変化してきたことにも起因しているように思います。

以前仏壇の会長をされていたIさんが、愛知のご親戚の話を良くされていたことを思い出します。家を新築された折、金仏壇で一万円のを新調されたそうです。この場合もそうですが、関東の方が、北陸のお宅を訪ねると、皆一応に驚かされるといいます。

それは、通された部屋等に、金色に輝く大きな仏壇が置かれているからです。関東ではめったに見ることのない見事さにびっくりさ



第22号

発行所

〒370-0131
伊勢崎市境米岡二七九-1
浄土真宗本願寺派弘教寺
寺報編集部
電話 0270(七四)0573

れた方も多いと思います。

先代住職の時代、仏壇では苦勞したようです。りんご箱にお線香で黒ずんだ白木の位牌が並んだ仮の仏壇や台所の高い所に置かれた小さな唐木の仏壇であったりと、浄土真宗が多い地域とは異なる仏壇事情がありました。

高度経済成長の流れの中で、昭和40年代後半から50年代にかけて、新築のブームとなりました。それに伴ない仏壇を購入する門徒さんも増え、その折に、ご本山よりのご本尊をご安置頂くよう勧めたことで、ほとんどのお宅が、ご本尊中心の浄土真宗のお仏壇に変わりました。今でも折りにふれ金仏壇のお話をするのですが、他宗派が9割以上を占めるこの地にあつては、その影響からか、抵抗が多いようです。

もう一つの特徴は、ここ関東地域では、仏壇以上にお墓に金をかける傾向が強いようです。「お寺まいり」よりも「お墓まいり」と言われるように、仏教徒と言っても、先祖供養が中心の考え方から、立派なお墓が立ち並んでいます。新築ブームの時代、「隣りの墓より高いものを」と競い合つて立派な墓が造られていきました。仏壇に比べ、かなりの力を入れようだったように思います。



金仏壇

ここで、浄土真宗の仏壇についてお話をしたいと思います。お浄土のおすがたを写し出す意味から、関西や北陸などでは、金仏壇が一般的です。中央正面には、阿弥陀さまの絵像もしくは、南無阿弥陀仏(六字名号)をご安置します。お木像である地域もあるようです。さらに向かって右側には、宗祖親鸞聖人の絵像もしくは、十字名号(帰命尽十方無碍光如来)をお掛けします。左側には、中興の祖と言われます蓮如上人の絵像または、九字名号(南無不可思議光如来)をお掛けします。

ご先祖については、法名掛軸に記名して、仏壇内側の側面にお掛けするか、過去帳に記入してご安置する方法が正しい飾り方です。

関東では、他宗の影響もあり、位牌を安置したいという希望が強いのですが、その際には、ご本尊正面を避け、一段下げて、中央ではなく左右のどちらかに置いて下さい。

仏壇も形式が

変わり、小さくもなってきました。ですが、住宅事情から変化してきたことであつてほしいと願います。

称名

◆ビハーラ活動◆

〈ビハーラとは〉

ビハーラという言葉を知ったことがありますが。インドの言葉で、「精舎」「僧院」をあらわします。

僧院(寺院)はもともと僧侶が修行する場所ですが、教育や医療の場であり、福祉の場でもありました。そういう意味では、心身の安らぎ(オアシス)の場としての役割を担っていたと言えましょう。

しかし、近代社会(日本では明治時代以後)になりますと、各地に学校ができ、病院ができ、行政による福祉的活動も進められてきました。その中で、寺院は、教育、医療、福祉としての役割を失なうことになりました。「死者儀礼」としての葬儀や法事などによる以外、社会的関わりが見い出せなくなってしまうました。

〈ビハーラ活動〉

1987年(昭和62年)に浄土真宗本願寺派では、本来の寺院の活動であるべきビハーラ活動を推進していくことが定められました。それは、医療、介護、福祉に僧侶や門徒が、積極的に関わっていく活動であります。

群馬ビハーラは、そうしたビハーラ活動を推進していくために、10年前に設立されました。現在、高崎市の^{かみおおい}上大類病院の若宮苑を中心に活動しております。



弘教寺では、ユカレリ(フラダンス同好会)が、若宮苑に10年前に参加して以来、今では、アザレア(コーラス同好会)やカラオケ同好会の皆さんも交互に、ボランティア活動に参加するようになりました。

ビハーラ活動は、老人施設の活動だけでなく、築地本願寺の東京ビハーラの皆さんのように、ガン患者の皆さんや家族の方々との交流を通して、医療的活動を積極的に進めています。

本山では、ビハーラ活動をより一層推進するために、この度の大遠忌法要の記念事業として、平成20年4月に、京都府城陽市に、「あそかビハーラクリニック」を開設しました。浄土真宗のみ教えを基本としたビハーラ活動を実践できる医療の場として、大きな期待が寄せられています。

高齢化していく中で、今後一層寺院が地域に対し、医療や福祉の分野で関わっていくことが大切であると思えますし、本来の寺院のあるべき姿ではないかと思えます。

ビハーラ活動が、ますます発展することを願っております。
(住職)

若宮苑でのビハーラ活動

若宮苑での年4回の群馬組ビハーラ活動が始まり、弘教寺仏教婦人会にアトラクションの依頼がありました。フラダンスを踊った事でユカレリが誕生し、毎年夏にはユカレリが参加協力させて頂き、早10年を迎えました。ユカレリの誕生に続きアザレア(コーラス)やカラオケ会も発会し活動が始まりました。

ユカレリとアザレアの合同参加の時は、若宮苑の皆さんは、見たり聞いたり唄ったりでとても楽しそうでした。またカラオケ会の参加の時は、懐メロの歌詞カードを配り、皆さんの間にメンバーが入り、肩を並べて唄いました。マイクを向けると大声で唄ってくれました。昔を想い出されたのか、懐かしかったのか涙を流す人もおられました。私達各サークルが参加協力して、皆様とともに、笑顔と安らぎのひとつきを過ごせる様に、思いやりの心を持ちながら、若宮苑のビハーラ活動に益々力を入れて頑張りたいと思っております。(野水た)



ユカレリのフラダンス風景

のか涙を流す人もおられました。私達各サークルが参加協力して、皆様とともに、笑顔と安らぎのひとつきを過ごせる様に、思いやりの心を持ちながら、若宮苑のビハーラ活動に益々力を入れて頑張りたいと思っております。(野水た)

仏教壮年会創立15周年記念イベント

澤孝子 浪曲の会

7月1日(日)午後1時半開演
浪花し左甚五郎伝「竹の水仙」
浪曲師 澤孝子先生
三味線 佐藤貴美江先生

弘教寺仏教壮年会が平成9年に創立され、今年が15周年という節目の年になります。

その記念事業の一

環として、7月1日(日)弘教寺本堂において、浪曲会が開催されました。

現在、日本浪曲協会会長として活躍中の澤孝子先生とその一門の澤雪絵さん、そして三味線曲師の佐藤貴美江さんにお越しいただきました。2年前の開山150周年記念イベントでの澤先生の話芸に魅了され、再度拝聴したいという声も多く、ご住職のお取り計らいで実現しました。

澤先生は、この世界に入門されて今年で58年になるそうです。その間、NHK第一回浪曲新人コンクールで最優秀賞や文化庁芸術祭優秀賞を受賞されるなど数々の輝かしい実績を挙げられてこられました。現在は日本の伝統芸能である浪曲を次の世代に確実に伝えるために、若手の育成にご尽力されておられます。



この日の浪曲会では、はじめに独り立ちをされて1ヶ月という澤雪絵さんによる「夢の女」の口演。「あなたはこの頃夢を見ていますか？」と締めくくられた楽しい一席でした。



引き続き、澤孝子先生による左甚五郎伝「竹の水仙」が口演されました。五臓六腑に染み渡るような迫力のある語り口、流れるような口調にいつの間にか引き込まれ、その場の情景が目に浮かんでくるようでした。当寺でもあり、多くの方が親しみを感じながら聞き入っていたようでした。先生の熱演に魅了され、いつまでも惜しみない拍手が送られました。

日本独特の話芸を、しかも一流の方の浪曲を、「生で」「間近で」堪能できる機会を得られたことに感謝しつつ、心地良い余韻に包まれながら閉会となりました。(栗原ま)

群馬組仏教婦人会連盟総会・研修会

6月5日、組仏婦の年度行事が藤岡・西蓮寺にて開催されました。弘教寺からは11人参加いたしました。群馬組は10ヶ寺で仏教婦人会が結成されているのは5ヶ寺です。23年度事業報告と今年度議案が承認されて、異議なく総会は修了。続いて講演会で栃木北組慈願寺住職、宗会議員の池田行信先生をお迎えして「震災・原発事故から学ぶこと、ダーナの実践」と云う講演で、ご法話を頂きました。とてもユーモアのある先生で、最後まで笑いが絶えない楽しい講演会でした。

『◎予期せぬ出来事に出合った時に、あたりまえの事が、あたりまえでない事に気付く。いつでも「ありがとう」の気持を持つていたい。◎目には見えないが、支えてくれるのが陰徳。◎自然の力には勝てない。◎お金が無くても出来る施し、無財の七施は何時でも、どこでも、誰でも、自分の出来る範囲で実践できるものでもあります。◎全ての命の繋がりに生かされて、支えあう助けあう心、私の出来る事から始めましょう。』最後に西蓮寺婦人会手作り布絵本「しんらんさま」を見て感動一杯で修了となりました。(倉林ま)

西蓮寺との第一回合同親睦ゴルフ会

去る5月7日藤岡市西蓮寺のゴルフ愛好者と当寺のゴルフ愛好者による第一回親睦ゴルフ会が、玉村ゴルフ場にて総勢18人参加により盛大に開催されました。お互いにゴルフを楽しみながら親睦を深め、ゴルフ終了後は同ゴルフ場にて懇親会を開き、全員でなごやかな一時を過ごしました。今後も西蓮寺の皆さんとゴルフを楽しみながら、懇親を深めて行こうと誓い合いました。



県内の浄土真宗本願寺派10ヶ寺のゴルフ愛好者の皆さんとの会も「群真会親睦ゴルフ」という名称で年2回開催され、6月6日には甘楽CCにて第32回目の大会が総勢29人参加のもと開催されました。(貝塚しゆ)



マイ箸作り風景

やって見せ・やらせてみて『竹のマイ箸作り』
 子ども達の日常生活でめったに使わなくなつた「肥後守」と寺の竹やぶから切り出した竹ひごを使っての箸作り。小刀や竹の扱い方の注意をして取り掛かり、スタツフが一人ずつ付いての作業です。余計な手を出さず、できるだけ自分の手でさせたいと思ひました。ただやらせるだけでなく、小刀で竹を削りやすりで磨くのを、手に手を取って見せたり教えたりできたのが、意外と上手な仕上がりにつながりました。お団子作りでは、ゆで上がるのを待ちながら一人何個食べられるか計算したり、残りのお団子を仏様にお供えしようとしてスタツフに教えられたり。自分の手作りの箸で手作りの団子を食べ、手作りの箸袋に納め記念撮影もしました。

住職のお話は、「合掌・礼拝とお焼香の作法。」その後、一人一人指導してもらい正しい作法を学びました。体験は体が覚えてくれるのです。 仮想空間での遊びに慣れてきて

いる子ども達に手応えのある集いをこれからも提供していきたいと思ひます。(坊守)

子どものつどい夏

8月25日(土) 一時半

「わいわい広場」に

集まろう!

◆この人◆ 福永君代さん・伊勢崎市

平成10年より10年間、弘教寺仏教婦人会会長を勤められた福永君代さんを訪ねました。東京都港区の出身です。少女の頃は家族で境町の叔父さんの所に疎開し、木登りをしたり運動会にリレーの選手で出たりし活発に過ごしました。中学から東京に戻り高等学校、洋裁学校、料理学校と通い、21歳の時に、従兄の敬さんと結婚し、再び境町に來ました。義母の宮崎せいさんは、弘教寺仏教婦人会初代会長です。3人の子どもに恵まれ、長男夫妻は弘教寺現住職の司婚により、仏前結婚で挙式しています。

仏婦会員になってから、まもなく「ぜひ役員に」と話があり一旦は断ったのですが、ご主人の勧めで役員になり会計係に就きました。その頃、前坊守の誘いにより公民館活動の茶道を習いはじめました。これは家族の協力がなければ、とても出来ることではなかったようです。現在では表千家の茶道家として、ご自宅で後進の指導に励んでおられます。



左が「福永君代」さん

(瀬古の・釋 安德)

◆ 行事予定 ◆ (平成24年 8月～平成24年 11月)

月別	弘教寺の行事予定		教区・群馬組の行事予定	
8月	20日	婦人会例会	13・16日	お盆
	25日	子どもの集い		
9月	16日	壮年会例会(3回)	1日	第6期組連研(11)西連寺
			8日	教区仏教壮年会理事会
	28日	婦人会例会	18日	千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要
10月	4日	仏壯15周年記念式典	19・25日	秋彼岸
	13日	子どもの集い	2日	組ビハラ(若宮苑)
	19日	婦人会例会	20・21日	第6期組連研修了式
	下旬	仏壯・仏婦合同研修旅行		
11月			10日	築地本願寺落慶法要
	22日	婦人会例会	11・16日	築地本願寺報恩講

※ 編集後記 ※

群馬組連続研修会で「御同朋」の議題が出され、グループ法座はいろいろな意見が出ました。親鸞聖人は鎌倉時代の階級制度の厳しい中、お念仏のみ教えをいただき生きざる者は皆同じ「とも」と説かれました。現在の社会は便利さのうらはらとして仲間意識がうすれ自己中心になりがちです。「命の大切さは他への思いやりの心」と担当の先生が話されました。生活の中にこの思いやりの心を大切にしたいものです。(橋本ま)